

農耕地への施肥に伴うため池の水質変化

田辺和司・馬淵繁樹・糸瀬貞義

農耕地への施肥に伴うため池の水質変化を調査するため、集水域が山林・水田・果樹園地域と各々限定されているため池を選定して調査した結果、つぎの点が明らかとなった。

1. ため池の水質に及ぼす施肥の影響は、各成分の溶脱の難易、作目の種類と栽培・肥培管理、土性、山林の有無等により著しく異なった。
2. 水田を集水域とする池田池における肥料成分濃度は、山林を集水域とする練木池及び溪流と同程度であり、施肥の影響はほとんど認められなかった。
3. 果樹園を集水域とする峠池及び六つ林地においては、 $\text{NO}_3\text{-N}$ ・ K ・ EC の値が極めて高く、明らかに施肥の影響が認められた。これらは峠池においてより顕著であり、1で述べた要因によるものと推察した。また、六つ林池においてはpHが高く、ほとんどが農業用水基準(6.5~8.5)を上回っていた。
4. 水田地域・果樹園地域とも $\text{NH}_4\text{-N}$ ・ DIP (溶存無機能リン)濃度は低く、山林地域のため池及び溪流と同程度であった。